

第1回検討委員会における論点整理

第1回検討委員会で出された主な意見を、次の4点に整理しました。

第2回以降の検討委員会では、この論点を中心に意見を伺い、その内容を基本方針（たたき台）に反映していきます。

学校の規模に関すること <参考資料1>

- ・ 少ない学校の良い点も考慮し、比較検討した上で結論を出す必要がある
- ・ 国の基準があるが、市独自の視点で適正規模を検討する必要がある
- ・ クラス単位ではなく学年経営の視点も取り入れるべき
- ・ 教室という固定的な器にとらわれず、弾力的な空間設計が必要
- ・ 学区の弾力化、学校選択制導入も検討課題となるか。他市の事例、メリット・デメリットの情報提供を希望
- ・ 小規模校での複数年複式学級の状況についても情報提供を希望する

適正配置（通学）に関すること <参考資料2>

- ・ 将来的な学校再編における物理的な距離の変化も考慮する必要がある
- ・ 小規模特認校が導入予定で遠くから来る児童生徒の研究も進めてほしい
- ・ スクールバスの活用も検討すべき
- ・ 子どもの安全を考えるとやはり学校が自宅近くにある

教育に関すること <第3回検討委員会以降に議論>

- ・ 特別支援学級が増加している状況に着目すべき
- ・ 児童生徒数は減っているが、特別支援学級増で教員数は減っていない
- ・ 学校運営していく教員も考慮する必要がある
- ・ 子どもたち一人一人のニーズに合わせた教育環境を整えていくことが重要である

適正規模に向けた対応策に関すること <第3回検討委員会以降に議論>

- ・ 小中一貫校、コミュニティスクール、学校施設複合化、防災視点も視野に入れるべきか
- ・ 地域共生を視野に入れた編成を考えるべき
- ・ 複合施設化も有効ではないか